

EXERCISE 4

細胞診のとり方

Q 16 子宮頸部細胞診の望ましい採取部位はいずれか

- a) びらん面
- b) コルポ診上の移行帯とその周辺
- c) 頸管内
- d) 後腔円蓋

Q 17 子宮体癌検診のための望ましい細胞採取部位について正しいのはどれか

- a) 子宮腔部
- b) 後腔円蓋
- c) 子宮体内膜
- d) 上記の組合せ

Q 18 細胞診の塗抹法として望ましいのはどれか

- a) できるだけ厚く塗抹する。
- b) ガラス面をそつとなでるように、薄く塗抹する。
- c) 平行に数条、すばやく擦りつける。
- d) 1枚のガラスに6～8個の小円状塗抹部をつくる。

Q 19 塗抹細胞診の固定時間として適当なのはどれか

- a) 迅速に固定し、固定時間は長い方がよい。
- b) 5分以内に固定し、固定時間は5分間がよい。
- c) 迅速に固定し、3～4日以内に染色する。
- d) 1分以内に固定し、1ヵ月以内に染色する。

Q 20 頸癌検診の細胞診成績に該当するのはどれか

- a) 疑陰性はすべて鏡検者が見落としたために生ずる。
- b) 疑陰性は鏡検エラー率に劣らず、標本採取エラー率の高さによっている。
- c) 不可視域に癌があるときは見逃される。
- d) 99%は正診するので、疑陰性率と疑陽性率は合わせても1%以下である。
- e) 頸癌では約80%の正診率である。

(解答は研修コーナーの最終頁にあります)

研修コーナー

EXERCISE 5

腫瘍マーカーの読み方

Q 21 正しいものを選び

1. 腫瘍マーカーとは生体由来の試料内に検出可能な癌細胞より作りだされる物質である。
 2. 腫瘍マーカーは、癌のスクリーニングには有用であるが、腫瘍の良悪性や進行度の検索には不適當である。
 3. 腫瘍マーカーは大きく分けて、細胞膜糖鎖抗原、癌遺伝子と遺伝子産物、の二つに分類される。
 4. 腫瘍マーカーはすべて、癌に特異的である。
- a) 1-3-4 b) 1-2 c) 2-3
d) 4のみ e) いずれでもない

Q 22 正しいものを選び

1. 感度 (sensitivity) とは癌患者の中で腫瘍マーカーが陽性であるものの率であり、特異性 (specificity) とは腫瘍マーカー陽性患者の中で癌患者の占める率である。
 2. 腫瘍マーカーとしては、どちらかと言うと、感度 (sensitivity) より特異性 (specificity) の方が重要である。
 3. 正診率、診断効率のカットオフ値に無関係である。
 4. カットオフ値は正常上限値であり、通常 $\text{mean} \pm 2 \sim 3 \text{ SD}$ で示される。
- a) 1-3-4 b) 1-2 c) 2-3
d) 4のみ e) 1-4のすべて

Q 23 上皮性卵巣癌に関連の少ない組み合わせを選び

1. CA125 2. SCC 3. HCG 4. CEA
- a) 1-3-4 b) 1-2 c) 2-3
d) 4のみ e) 1-4のすべて

Q 24 妊娠により増加するものを選び

1. CA125 2. AFP 3. SLX 4. TPA
- a) 1-3-4 b) 1-2 c) 2-3
d) 4のみ e) 1-4のすべて

(解答は研修コーナーの最終頁にあります)

EXERCISE 6

子宮癌のプライマリ・ケア

Q 25 子宮頸癌の細胞診について誤りはどれか

- a) SCJ 付近より細胞を採取する。
- b) 変換帯が視認できないときは頸管内より採取する。
- c) 標本はただちに固定する。
- d) 頸部細胞診による体癌診断率は60%以上である。
- e) クラスⅢaは精密検査の対象となる。

Q 26 子宮体癌のハイリスク因子はどれか

- a) エストロゲン服用歴
- b) PCO
- c) 閉経後
- d) 少ない妊娠・出産回数
- e) 上記のすべて

Q 27 子宮体癌の進行期分類には手術進行期分類（日産婦 1995, FIGO1988）を用い、初回治療として手術が行われなかった例には、従来からの臨床進行期分類（日産婦 1983, FIGO1982）が適用される。

- a) 正しい
- b) 誤り

Q 28 子宮体癌の手術進行期分類（日産婦 1995, FIGO1988）において

- a) 癌が子宮体部に限局し、浸潤が子宮筋層1/2以内のものはⅠb期である。
- b) 腔転移のあるものはⅢb期である。
- c) 頸部間質浸潤のあるものはⅡb期である。
- d) 傍大動脈リンパ節転移のあるものはⅢc期である。
- e) 上記のすべてが正しい。

Q 29 現在の健保適用では、腫瘍マーカーの測定は、癌の疑いがある時は1回のみで4項目までの加算があり、診断確定後は悪性腫瘍特異物質治療管理料として1ヵ月に1回（2項目まで加算）の測定が認められる。使用できる腫瘍マーカーの種類はとくに規定されていない。

- a) 正しい
- b) 誤り

（解答は研修コーナーの最終頁にあります）